

2023 年度（令和 5 年度）事業報告

事業種 障害者支援施設 緑の家
事業名 施設入所支援事業
生活介護支援事業
短期入所支援事業

1 施設を取り巻く現状と課題

(1) 事業の種類及び利用定員

- ① 施設入所支援事業 50 名
- ② 生活介護事業 50 名
- ③ 短期入所支援事業 1 名

(2) 県市町村等からの受託、補助事業等

- ・地域交流ホームは福祉避難場所として指定を受けていますが、雨漏りによる屋根の補修を業者へ依頼し、完了しました。市町村からの要請などはありませんでした。

(3) 地域における公益的な取組

- ① 由布市開催「生涯を通じた障害者の学び事業」ゆふぽキラキラ教室の参加参加
- ② 援農請負作業
- ③ 地域交流ホームの貸出（ミニバスケット、バレー、少年野球クラブなど）

(4) 運営方針

朝礼時に法人理念を参唱し、その日の活動確認及びそれに係る職員の動きの確認、また保健分野も全体で共有できる日誌を活用しています。さらに『職員間の連携』と題してキャリアパスの事業所目標に設定し職員全体での意識強化を図りました。

入所者の高齢化が進み、緑の家から希望の家を利用している方も今後、緑の家生活介護事業を利用する可能性が考えられます。また、身体機能低下により食事や移動、排泄など支援の必要性が高くなっています。それにより、トイレや浴室などバリアフリー化の考慮も必要です。

支援に伴う専門性が高くなるにつれ、支援者はより高度な専門技術が求められるにあたり、経験年数や専門職などに分類し、必要な外部研修に参加しました。今後はフィードバックをはじめ園内研修の充実を図っていきたいと思います。

2 施設の実施策と取組の方向性

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	①実習生や施設見学の受け入れ、情報発信（達成率 80%） ②各種休日の取得、各種資格取得制度の活用（達成率 80%）
------	---------------------------------------------------------------

現状と課題	<p>①実習や施設見学の受け入れは行っているが、入職には至っていない。スマイル広場では積極的に情報発信を行っているが、緑の家自体の広報活動はHPのみとなっている。</p> <p>②年次有給休暇においては年間計画を立てて計画的な取得を目指しているが、人員不足によりその他の出勤職員に負担が掛かっている。</p>
取組の方向性	<p>①現行のツールを活用しながら積極的な広報活動に繋げる。</p> <p>②計画的に取得可能な体制を整え、周囲の理解・フォロー体制の構築を図る。</p>
取組の結果	<p>①パン販売や日中活動の様子など経営企画室にも協力をいただきホームページやSNSでの情報発信をしました。</p> <p>別府大学生の実習受け入れ実施しました（7月、9月）、10/29のBFに学生ボランティア1名参加しました。</p> <p>②計画的に年次有給休暇、希望休日など体制及び周囲の理解・フォロー体制の構築を図り、勤務作成時に全職員へ希望休日の意向確認を実施し、それに伴い勤務調整も職員全体で把握及び共有し日々の業務に努めてきました。また、年次有給休暇についても、全職員へ勤務作成者が意向確認し反映し、職員全体の年休取得状況として平均12日でありました。</p>

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	人財育成（達成率 60%）
現状と課題	中途職員や他施設からの異動職員が多く、当施設での経験年数が少ない状況にある。専門技術を要する班（営農・生販）に係る職員の継続的な配置が出来ていない。
取組の方向性	新任職員だけでなく、中途採用職員にもメンター制度を取り入れ、職員一人ひとりの困りや課題を把握し、育成に繋げる。
取組の結果	新任職員及び中途採用職員へのチューター制度の取入れについて、日中活動をはじめベテラン職員や中堅職員へ教育的職員に位置付け、分からない事等、職員会議や朝礼、日中活動を通じて共有しやすい環境を形成しました。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	チームワークの強化と意識の統一（達成率 60%）
現状と課題	様々な職種や立場、経験年数により意見の相違があるため、意識の統一が難しい。

取組の方向性	職場の雰囲気作りをし、チームワークを高める
取組の結果	会議前に職員より提案書を提出していただき、様々な年数や職種の観点から会議運営を実施しましたが、その場での解決に至らない議題については翌日の朝礼に引き継ぎ解決に努めました。

エ業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	職員の業務改善（達成率 60%）
現状と課題	2週間に1回カエル会議を実施し、意識改革と働きやすい職場づくりに向けて取り組んでいる。一方で業務量が増え、職員に過度な負担がかかっている。
取組の方向性	職員間で現状や課題を抽出し、業務を効率的に行い改善を図る事で業務過多や残業を減らし、プライベートな時間との両立を目指す。
取組の結果	職員会議時に事前に準備してある提案書を基に改善や提案を抽出し、各活動場所の進捗状況を確認し全体で取り組む意識を伝え、販売や援農作業など他部署の職員も参加し業務の効率化を図りました。2週間に1回のカエル会議ができなかったため、職員会議や各委員会時などを利用し様々な意見を抽出しました。

(2) 利用者の生活を支えるサービスの質の向上

ア先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	職員のスキルアップ（達成率 60%）
現状と課題	利用者の高齢化に伴い専門知識や技術が必要となって来ているが、経験不足な部分がある。
取組の方向性	積極的に内部・外部研修を行い、職員間で共有する。
取組の結果	積極的に外部研修に参加しましたが、内部研修に至ってはおもうような取り組みができませんでしたので、次年度に活かしていきたいと思います。職員間で共有する取組みとして、パート雇用の職員さんも同席していただきスマイル広場（パン作業）にて、月1回会議を実施し、新商品開発など現場職員との共有機会に結びました。

イ安全安心で快適な暮らしを保証し、利用者の満足度を高める。

実施施策	①住環境の整備（達成率 40%） ②日中・余暇活動の充実（達成率 70%）
------	------------------------------------------

現状と課題	<p>①利用者の高齢化に伴い、必要な居住環境が整っていない。</p> <p>②コロナ禍でも出来る事を模索して取り組んでいるが、人員不足により活動の幅が狭くなっており、利用者個々への対応が出来ていない。</p>
取組の方向性	<p>①利用者の高齢化に伴い、必要となる施設整備（バリアフリー化）に取り組む。</p> <p>②活動の見直しや職員の意識改善を図り、限られた人員の中でも利用者が満足を得られるような活動の検討・取り組みを行う。</p>
取組の結果	<p>①利用者の高齢化に伴い、必要となる施設整備（バリアフリー化）にとして、利用者のニーズに合わせた取組みが未達成であり、次年度に取り組んでいきたいと思ひます。</p> <p>②活動の見直しや職員の意識改善を図り、限られた人員の中でも利用者が満足を得られるような活動の検討・取り組みとして、サービス管理責任者を中心に毎日の朝礼時に人員確認など漏れや負担などのないよう努めました。また、キャリアパス面接時に業務分掌を照らし合わせ進捗状況の確認し、必要に応じて調整しました。</p>

ウ施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	日中活動を通じた地域交流（達成率 70%）
現状と課題	技術工芸班の援農作業や生販促進班のパン製造販売においては地域との関わりを持ちながら活動に取り組む事が出来ているが、施設としてはコロナ過の影響もあり、対外的な活動を制限している。
取組の方向性	地域交流の場としてのスマイル広場を活用した取り組み（清掃活動、作品の展示、施設の広報活動）を行い、地域との繋がり強化する。
取組の結果	地域交流の場としてのスマイル広場を活用した取り組み（パンのイベント出店、由布市くらし部会のアート展など）を実施し、その他地域との繋がり強化の取組みとして、援農作業を通じて地域との関係性を良好に努め、またパン製造では月 1 回の会議の場で売れ行き状況を確認し、新商品開発を行い販売に繋げました。

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	節約に対する意識付け（達成率 60%）
------	---------------------

現状と課題	担当者だけが経費を把握し、その他の職員は実態を把握していない。施設設備や備品の管理・使用、生産活動において生産性を意識した業務が出来ていない。
取組の方向性	施設、各活動班毎に立てた予算に沿って運営出来ているか、削減できる経費はないか見直し、及び「見える化」を行いコスト意識を高める。
取組の結果	施設、各活動班の予算に沿って事業を遂行し、可能な限りの経費削減の見直しを行い、日中活動を中心に機械類の扱いなど、経験ある職員が若手職員へ技術指導を行い、備品管理から取り扱いについての説明及び現地指導に取り組みました。また、万一事故など起こした際には速やかに報告に来るよう周知を促しました。

イ中長期的な視点を持って、持続性の高い経営を行う。

実施施策	利用者のニーズに対応可能な職員の育成（達成率 70%）
現状と課題	能力低下や重度利用者の受け入れ需要が高まっているが、職員の知識、技術不足や施設環境が整っていない事により、個々の特性に合った支援が充分にできていない。
取組の方向性	個々の特性（高齢化等）に合わせた対応ができるよう、内外の研修会に積極的に参加し、必要な知識・技術を習得する。
取組の結果	個々の特性（高齢化等）に合わせた対応ができるよう、研修会に積極的に参加し、必要な知識・技術を習得する取組みとして、外部研修へ必要な限り参加しました。毎月の園内研修についてはおもうような実施ができなかった為、次年度へ活かしていきたいと思えます。また、個別支援計画のモニタリングを9月と3月に実施し、その後の支援計画に反映させ利用者個々のニーズに合わせて対応に努めました。

ウ組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	職員間の連携（達成率 70%）
現状と課題	情報共有に努めているが、職員一人一人の考え方や意識の違いにより支援方法の統一化が不十分。
取組の方向性	チームワーク作りと意識統一
取組の結果	チームワーク作りと意識統一の取組みとして、朝礼時にその日の活動確認及びそれに関わる職員の動きの確認、また

保健分野も共有し全体で周知できる日誌を活用しました。
また、『職員間の連携』と題してキャリアパスの事業所目標に設定し、法人研修テーマとしても掲げ、日中活動が主になりましたが職員全体での意識強化に取り組みました。

3 目標利用率

事業名	定員	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均/月
施設入所支援	50	96%	93%	96%	97%	92%	96%	96%	98%	94%	91%	92%	93%	94%
生活介護	50	77%	76%	77%	80%	81%	83%	82%	87%	83%	82%	74%	78%	80%
短期入所支援	1	6.7%	6.5%	6.7%	0%	6.5%	6.7%	6.5%	6.7%	6.5%	0%	0%	22.6%	6.2%

4 固定資産物品購入計画

(単位：千円)

名 称	執行見込額
公用車（軽自動車） 令和5年9月7日購入	1,450
公用車（10人乗り） 次年度へ検討	3000
由布棟浴室エアコン 次年度へ検討	250

5 修繕計画（大規模修繕を除く。）

(単位：千円)

名 称	執行見込額
地域交流ホームの屋根 令和5年10月17日完了	93
鶴見棟トイレバリアフリー・トイレ排水工事 次年度へ検討	1000

6 大規模修繕計画

(単位：千円)

名 称	執行見込額